

3番（島田 正彦君） おはようございます。

本日は3点の質問をさせていただきます。

まず1点目は町の観光活性化です。これについて伺いたします。2点目は町長のマニフェストということで、短期政策で述べられています5項目に関しまして、ご質問させていただきます。3点目が企業誘致でございます。

まず1点目の町の観光活性化について、ご質問させていただきます。

町の活性化には観光事業というのは不可欠でございます。そのためには集客度を図り、にぎわうまちづくりが必要だと思っております。4月8日、日曜日、員弁神社、上げ馬神事に初めて参加させていただきました。6月3日、これも日曜日でございますが、東員こども歌舞伎、ともに拝見させていただきました。これを見て、これぞ東員のブランドだということで、心強くして感激をいたしました。

この町には伝統文化の継承をPRしていただいている、東員町文化協会と観光資源の発掘、PRをしていただいている東員町観光協会がございます。今回2協会の総会に出席をさせていただきました。東員町のために真剣に取り組まれている姿勢に対して心から敬意を表します。この2協会に対して、町はどのようなサポートをされているのか、具体的にお伺いたします。これが1つ目でございます。サポートというのはお金だけじゃなくて、違う面でのサポートも含めて、お答えいただければありがたいと思っております。

近隣市町では行政と協会、施設などが一体となって、月1回のペースで観光会議をやっております。そこでいろいろな提案や活発な意見交換、情報交換をし、まちおこしの材料を模索しております。こちらが真剣な取り組みの姿勢を見せれば、県の観光課アドバイザーも出席して、なおかつ盛り上がるような会議になると思っております。

ここで2つ目の質問でございます。現在行政主体で協会施設などと定期的な会議は開催されていますか。開催されていないのなら、今後開催の計画はありますか。

平成27年度東海道環状自動車道東員インターが開通予定でございます。それに伴い、イオンモールが平成26年、1年前にオープンということでございます。3つ目の質問でございますが、これに伴い、町として何か観光の具体的な取り組みをお考えでしょうか、お伺いたします。

4つ目はこちらからの提案ですが、東員町に「町の駅プラン」は考えられないでしょうか。皆様ご存じのとおり、旅行へ行かれると必ず「道の駅」には寄られると思います。ただし、道の駅を開設するには多額の費用と非常に縛りが多いのです。なかなか難しいのが現状でございます。ちなみに町の駅というのは容易に開設できます。現在、道の駅は全国で987カ所、三重県は15カ所でございます。町の駅は全国1,439カ所、三重は5カ所です。その5カ所の中の3カ所がいなべ市で

ございます。阿下喜温泉、農業公園、青川峡キャンピングパーク、これが今、町の駅に登録をされております。

これも提案になりますが、現在お聞きしますと、中部公園には年間30万人の集客があるそうでございます。残念ながら売店も、物を売るところも見当たりません。自販機があるのみだと思います。来訪者の方の中には、ここで地産地消の物を売れば、週末はにぎわうんじゃないかという声も聞かれます。せっかく30万人のお客様に対して、非常に機会ロスが大きいと思います。

あくまでも試算でございますけど、1人100円使っていただいても3,000万円になります。こんな状態にはならないと思いますけど、もう少し観光には貪欲な精神が必要だと思うんですね。せっかく30万人集まるという施設は、なかなか見当たらないと思います。

6つ目になりますが、観光は、以前から私の考えでございますが、単体でやるよりも広域でPRするほうが、効果は大だと思います。その意味で近隣の桑名市、いなべ市、四日市などと行政主体の観光会議を定期的開催されているのでしょうか。また、されているのであればその効果は、実績はどうでしょうか。

観光というものは、もともとその地域に存在しているものと、新たにつくり上げていくもの、この2通りがございます。1つでも多くの町としてのブランドがあれば、ブランドを創設するのは観光の目的である集客のポイントだと思います。

ある町民の方が私にお話しされました。コスモスをPRしているのであれば、せっかく北勢線が走っております。穴太から、せめて東員駅までの車窓からコスモスが全部見えるような畑にしたらどうかと。どこかの一角にやるのではなくて、電車から見える、そういうものをつくってくれという意見がございました。このような町民の一つ一つの素朴な提案も、今後できる限り行政の方とも相談しながらやっていきたいなと思っております。町民参画のまちづくりの一環だと考えております。

以上でございますので、質問にお答え願いたいと思います。

議長（南部 武司君） 藤井浩二建設部長。

建設部長（藤井 浩二君） 島田議員の「町の観光活性化について」のご質問にお答えを申し上げます。

まず、第1点目の観光協会への支援についてでございますが、観光協会は平成18年度に発足し、町の観光資源の発掘や観光PRにご尽力を賜っております。

町といたしましては、協会運営に係る補助金と転作田を利用したコスモス祭や流鏑馬道中、中部公園でのイルミネーションなど、観光事業を委託することにより協会が自立できますよう、支援を行ってまいりました。

平成23年度には協会運営補助金を120万円、委託事業として210万円を支出してありますが、本町には観光資源も乏しく、観光協会には資源等の発掘など、ご努力をいただきたいと考えております。

また、今年度から観光協会の自立・運営強化を目指し、事務所を中部公園へ移転して、公園管理業務の一部を委託させていただいております。

今後も観光協会の自立へ向けた取り組みを支援させていただきたいと考えております。

2点目の行政と協会との定期的な会議の開催でございますが、現在のところ定期的な会議は開催しておりませんが、イベントなどの打ち合わせ、協会運営について、必要に応じ、協議をさせていただいております。

議員からご提案がありました県の観光プロデューサーによるアドバイザー制度につきましても、残念ながら平成23年度をもって終了したことを県からお伺いいたしました。観光協会のご意向もお聞きし、新たな観光資源の発掘や観光振興施策の推進を図ってまいりたいと考えております。

また、教育委員会の所管ではございますが、ご指摘の東員町文化協会は、文化芸術の振興及び町民の皆様に豊かな生活と文化の高揚に寄与できるよう、文化振興に関する自主事業を行っていただいております。その目的を達成するため、補助金をもって支援し、広く活動をいただいております。

また、町からは文化祭や多くの公民館講座の運営を委託し、その企画運営全般を行っていただいております。

社会教育課によりますと、文化協会との定期的な会議は行っていただいておりますが、文化事業の委託を行っていることや、文化センターを使用している事業など、協議の申し出がある場合には、その都度開催をしているとのことでございます。

次に、東海環状自動車道東員インター開通予定に伴う町の具体的な取り組みでございますが、現在、新名神四日市JCTへ平成27年度開通を目指し、工事を進めていただいております。

開通をいたしますと新しい町の玄関となることから、インターチェンジ利用の方々に対し、町をアピールできるような観光マップの看板や、また議員からご提案いただきました町の駅につきましても、インターチェンジ開通にあわせて検討を行う必要があると考えております。

また、中部公園の一角に町の駅をとのご提案でございますが、本年度において中部公園管理棟の一部を改良し、売店設置を行い、地元で作られた商品、農産物等の販売を行ってまいりたいと考えております。

最後に、広域での観光会議についてでございますが、鈴鹿市より北部の市町、5市5町で構成する北伊勢広域観光推進協議会と、岐阜県西美濃地区の2市9町と桑員地区の市町で構成する西美濃・北伊勢サミットに参画し、特産品バザール・観光宣伝キャラバン・体験ハイキング大会等、広域での観光振興に取り組んでいるところでございます。

今後におきましても、他市町と連携をしながら観光振興を積極的に推進してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

議長（南部 武司君） 島田正彦議員。

3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

ブランドが非常に東員町は少ないですね。先ほども言いましたように、ブランドというのは、もともとあるものと、これから創生していくものと2つございます。せっかくいなべ市と桑名市に挟まれた東員町でございます。いなべ市も活発にやっております。桑名市は当然ながら人口も多いですから活発にやっております。

そういうことで、いろんな町の駅ですね、そういう構想もございまして、これは縛りが非常に少ないので、申し込んでいただければ、すぐでもできると思います。せっかく三重県に5つしかないうちの3つが隣のいなべ市にございます。道の駅になりますと、非常に縛りがきついです。規模とか場所、立地条件、その点、町の駅というのは非常に容易にできますので、ブランドの1つとして、東員町の町の駅をすみやかにつくっていただけるような、申請をしていただけるようなものを皆さんでお考え願えれば助かります。

場所としては、今、中部公園が一番いいんじゃないかということでございます。温室のところもありますね、野菜を売っている、あそこでもいいんです。別に何の縛りもないのです。そこに管理する人がいるという必要もないので、ただそこがにぎわう町にするという町の駅の構想でございますので、一つでもいいですから、多く町の駅を東員町につくっていただきまして、少しでも観光のお客様がみえたときに、そこへ寄っていただけるようなシステムをつくっていただきたいと思っております。

それとインターが開通されるということで、具体的に看板のそういうものは考えられているのでしょうか。質問なんですけど、よろしいでしょうか。

議長（南部 武司君） 藤井建設部長。

建設部長（藤井 浩二君） お答えを申し上げます。

まだ具体的な構想はございません。平成27年度でございますので、平成28年3月ぐらいが開通予定になるかなというふうに考えております。

町の看板といたしますと、役場へ入っていただくところに、ユニークな方法で公共施設のご案内看板ぐらいが東員町の看板でございまして、もう少しその辺も研究をさせていただき、皆さんが楽しく見ていただけて、東員町のすばらしいところをアピールできるようなものができればと考えております。位置的なことにつきましては、北勢国道事務所にもお願いをいたしまして、場所も設けたいと思っております。

以上でございます。

議長（南部 武司君） 島田正彦議員。

3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

東員インターの隣が大安のインターですね。大安にもジャスコがございます。こちらにもジャスコが平成26年に開店すると思います。

ただ、ジャスコで足をとめるような仕組みをつくらないと、東員町を通過して大安町に行くというようなこともありますので、もうあと何年もないんですから、東員町としての取り組みを、仕組みをきちっとして、少しでもお客様が東員町に入っただけのような仕組みを、行政のほうと一緒に、我々もやっていきたいなと思っております。

30万人おみえになっている現在の中部公園なんですけど、ここには今ご存じのとおり、自動販売機しかございませんね。これはタイミングを待つまでもなく、今何か増えるんですね、開設されるわけですね。もう少しお客様が集まれるような憩いの場として、開通する前に何か一考できないでしょうかね。せっかく30万人集まって、そのまま帰しているような現象と私は受けるんですけど、何かあれば、もっとそこでお金を使っただけだと。すごくもったいないと思います。

いなべ市の阿下喜温泉でも年間15万人なんです。その倍もお客さんがおみえになって、お金を捨てずに帰られていくわけですから、そのこの仕組みを開通前にもう少し事前のそういうものを運動されたらいかかかなと思いますけど、その点はいかがでしょうか。

議長（南部 武司君） 藤井建設部長。

建設部長（藤井 浩二君） お答えを申し上げます。

議員ご指摘のとおり、私どももなかなか観光とか商売というものを、長い行政の中で疎うございまして、新しい町長を去年迎えまして、その辺についてかなり指摘をされたところでございます。

もっと積極的に目を開いて、そういうところ辺にも目を向けよということでご指示をいただきまして、本年度でございますが、中部公園の管理棟でございますけど、先ほどもご答弁申し上げましたが、その一角に物販をできるコーナーを設けます。これはあくまでも今の中の改良で一遍やってみたい。改良して物販できるような状況をつくってみたい。そこでまた、どんどん伸びるようであれば拡大をするというような方向で検討していきたいというふうに考えております。

オープンは多分今年9月ごろには間に合うようにということで、担当課の建設課には指示をしておるところでございますけども、なるべく早くつくりまして、そちらで、地元で採れた野菜とか、また今、いずみさんが一生懸命考えていただいておりますパンとか、パンも、こちらで売る方法もあるわけでございますけども、そちらでも売っていただいたり。テスト的には、いずみさんには出張販売も一部ご縁で試験的にやっていただいておりますが、大変好評やということでございますので、その辺も、いわゆるそこで定期的に、あそこに行けばこういうものを買えるんだと

ということになれば、お客様もどンドン地方に向いていただけるかなというふうに考えております。

今年一遍つくってみますので、いろいろ島田議員が持ってみえる知識を私どもにもまたいただきたいと存じます。

以上でございます。

議長（南部 武司君） 島田正彦議員。

3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

非常に遠慮深いというか、もったいないですよ。もっと積極的にPRして、バンバン攻めていくという形をとらないと、なかなか観光というのは待っていても来ないと思います。隣に桑名市、いなべ市、桑名はもちろんですし、全国ですから、ただ、いなべにも影響されないように、我々独自の東員町のもう少し観光事業に対して、我々議員も含めて、もっとPRをしていきたいと思います。そのために行政の方たちも頭を真っ白にして、もう一度お客さんを呼ぶんだという意識の東員町に、輝きのある東員町にしていきたいなど。

私もそうかもわかりません。非常にPRが下手ですね。もう少し大胆に攻めていったほうがいいと思います。攻めて何ぼなんですね。待っててもお客さん来ないです。何か新しい取り組みをして、その中からチョイスをして、それに肉をつけて、皆さん一丸となってやるということですね。

この前も祭りがありまして、1,600人ですか、非常に私、東員町にしては少ないと思います。5,000人来てもいいと思います。阿下喜温泉でイベントをやったら4,000人来ます。もったいないです。これだけのいい町で。もっと目標を高くして、いろんな方を呼び込む。ここの内輪だけじゃなくて、四日市、桑名、名古屋でも結構です、いろんなところにPRをして、よその人間を集めて外貨を使っていたるようにやっていけたらなと思っております。

以上でございます。

2点目です。現町長誕生から1年強、経過をいたしました。町長のマニフェストの中に短期的な取り組みでご提案された5政策の進捗状況をお伺いいたしたいと思っております。

そのまま読ませていただきます。

1. 優良なベンチャー企業家を町内に呼び込む体制を1年である程度骨格を固める。

2. 自立した地域づくりを応援します。（自治会単位で活動方針、内容、予算を決めて、年間計画を決めてご提案する）。

3. 公共の空いたスペースを皆さんのアイデアで使用していただけるようにする。

4. 子どもによる子どものための子ども条例をつくる。

5. 子どもの子どものによる子どものための祭りをつくり、毎年開催します。

というマニフェストでいただいておりますが、その後の進捗状況をお伺いしたいと思っております。もし前に進んでいないのなら、その弊害になっているのはどんな部分なのか、同時にお聞かせ願えればありがたいと思っております。

よろしく申し上げます。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 私のマニフェストにつきまして、5つの政策をお取り上げをいただき、その進捗状況をご質問いただきましたので、順次お答えをさせていただきます。

1点目の優良なベンチャー企業を町内に呼び込む体制づくりにつきましては、残念ながら、なかなかまだ進んでいないというのが実態でございます。

4月に行政組織を見直しまして、大学や研究機関、企業などにご協力をいただきながら、現在本町として、いろいろな政策に取り組んでいるところでございますが、そういった中で出てくる技術や事業などに将来の可能性を感じさせるものがたくさんありまして、私としましても、こういったところに実は期待をしているところでございまして、今後そういったものが実を結んでいくように、努力をしてみたいというふうに思っております。

2点目の自立した地域づくりの応援につきましては、現在動いております東員町ふるさとづくり事業補助金を、より効果的に地域の皆様にご活用いただけるよう、一部を一括交付金に見直すこととし、現在、自治会長会役員会にお諮りをいたしているところでございます。また、その一部は、地域の結束をより一層固める「きずなづくり」を進めていただくための助成金を創設しようと考えておりまして、現在、素案づくりの検討を行っているところでございます。

3点目の公共の空いたスペースを町民の皆様のアイデアでご使用いただくという件でございますが、昨年夏ごろから、役場正面玄関西側の待合スペースを「町民ギャラリー」として、毎月たくさんの作品を展示いただいております、多くの町民の皆さんに楽しんでいただいております。

今年は文化センターのロビーや展示スペースを有効に活用いただけることも考えておりまして、教育委員会のほうで検討をしております。

また、中部公園では、ボランティアの皆様が、池の法面にアジサイを植樹していただく取り組みや、水辺空間にホタルが舞うための取り組みなど、本町のイメージアップのためのご尽力をいただいております。

今年は、先ほどのご質問にもありましたように、3月議会でご承認をいただきました、管理棟を改修して物品販売できるスペースを確保し、来場者の皆様に活用いただくということにも取り組んでまいります。

4点目の「子どもの権利条例」につきましては、現在その策定に向けて準備を進めているところでございます。本町の教育方針として「生きる力」を育むことを掲

げておりまして、この条例策定につきましては、大人がサポートしながら子どもたち自身が自分の考えで議論し、自らの手で創り上げていくことを期待しております。その過程で子どもたちの気づきや、あるいはサポートする大人たちが学んでいくということもあると思っております。これから2～3年かけて条例化にもっていければということで、今進めさせていただいております。

最後に子どもの祭りについてでございますが、これも残念ながら推進に向けての体制が整っておりませんで、頭の中に青写真はありますが、正直言って、まだ手つかずの状態でございます。

そんな中で、昨年から「員弁1300年祭」に関するイベントの準備が、町内の若者を中心に進められておりまして、体制を整えば、行政としましても、このパワーあるまちづくりを支援していきたいと思っております。

私のマニフェストにつきましては、まだまだ進んでいないものもございまして、任期の4年をかけて、一つ一つ丁寧に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げるところでございます。

議長（南部 武司君） 島田正彦議員。

3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

町長のマニフェストが19挙げられまして、皆さん期待をしております。期待をしているゆえに、進捗状況というのはどうなっているのやというお声も聞かれますので、適宜タイミングよく、こんな状況で今こうだということを、皆さんにPRをしていただくというのが非常に大事なかなと思っております。

非常に大きくざっくりやってもなかなか浸透しないので、23の自治会、それを小まめにやられると、意外とつぶしていけると思うんですけど、ざっくりはなかなかバラバラで決まらないと思いますね。いろんな説明会もそうなんですけど、できたら非常に小まめになりますけど、23という自治会がございまして、そこに踏み込んで、一つ一つ時間もかかるかもわかりませんが、説明をして、同意をもらわないと、なかなか前に進まないような感じを、私は3カ月、この席に着きましてすごく感じますね。

それと非常に少子化、高齢化が進んでおりますので、子どもがここに住んでよかった、またそのお父さんですね、若いパパとかママが東員町から離れないような仕組みを、いろんな角度から検討してつくっていただきたいと思います。

それから町民ギャラリーですね、玄関入って右側にございますけれど、ほかの市町も呼び込んで、もっと活性化されたいかがでしょうか。自分ところの身内だけでやっているコンパクトになるんですけど、四日市市でも、隣のいなべ市でも桑名市でも、好きな方はたくさんみえます。その方が出られることによって、その周囲がたくさんみえます。20人、30人と。それが町の活性化の一環になると思います。隣の温泉の施設もそうなんですけど、最初はいなべ市しかやってなかったん



です。今はもう近江までやってます。それによっていろんな方が見に来られます。それで初めて東員町へ来られる方もみえるかもわかりません。

町の活性化というのは、ここだけでやるんじゃなくて、もっと広域に、広い視野のもとに、東員町を知ってもらうためにお客様を一人でも呼び込むというのが、一番大事な施策だと思っておりますので、またぜひ検討をしていただきたいと思います。

公共の空いたスペースが、どこが空いているのか、よくわかりませんが、中部公園30万人というのが頭にすごくありますので、ここを生かさないとはいけません。お隣の阿下喜温泉では年間15万人しか来ません。頑張ってもそれだけです。その倍おみえになっているんです。うちは入浴料を取ってますので、お金が発生しますけど、30万人来てみえて、自販機だけで50円、100円、買われるんだったら、何かそういう仕組みをつくれれば、必ず地産地消の野菜でも買っていかれると思うんです。それはまちおこしになり、対外的にPRになると思いますので、ぜひそういう目で今後しっかりやっていただきたいと思いますので、よろしく願います。

次は3点目になりますけど、企業誘致について、お伺いしたいと思います。

企業の誘致というのは町の活性化には欠かせません。土地の有効利用、固定資産税の増収、雇用の拡大など、メリットもたくさんあります。イオンも平成26年の春オープンの予定になっておりますので、また雇用のお役に立てるかなと思っております。若者の定住化を図るためにも、企業誘致というのは重要な要素だと考えております。

その後、私の目からは、イオン以外の、近年目につかないような企業誘致をするんですけど、もし間違っていたら申しわけございません。ここで伺います。

1つ目は、過去5年間の企業の誘致の実績はどんなものでしょうか。2つ目は、現在交渉中のお話はございますか。あれば具体的に内容をお伺いいたします。3つ目は、今後の企業誘致に対する取り組みを具体的にお伺いしたいと思います。4つ目は、現在の固定資産税のうち、企業からの税収は何パーセントでいくぐらいなんでしょうか。もしお答えできるなら、お伺いしたいと思います。

近隣の飛鳥村というのをご存じだと思うんですけど、人口は4,500人なんです。固定資産税が20億円です。そのうちの企業からの固定資産税が18億円です。そこと一緒に比べるわけにはいきませんが、やはり税収というのは財政の根幹をなします。余り頼り過ぎると、隣のように苦しむ結果になりますので、その辺を見きわめながら、企業を誘致して固定資産税を増やして、少しでも東員町の財政を豊かにしたいと思っておりますので、この4つの質問にお答え願いたいと思います。

よろしく願います。

議長（南部 武司君） 樋口和人副町長。

副町長（樋口 和人君） おはようございます。

まずもって東員町議会で初めて答弁をさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。また、島田議員には答弁の機会をつくっていただきまして、ありがとうございます。

島田議員のほうからは、いくつかの点で、企業誘致についてのご質問をいただいております。順次お答えを申し上げます。

まず1点目の過去5年間の企業誘致の実績があるかというお尋ねでございます。

まず新規進出としましては、Y・Gテックという株式会社さんが平成21年に進出をされております。また、扶桑工機さんでございますが、当初から東員町にあるわけでございますが、工場の増設を、同じく平成21年にされておるということでございます。東員町内にございましたホクト合成株式会社さんが、平成22年9月に本社工場を東員町に持ってきていただいたというような、そういった実績がございます。

次に2点目の交渉中の企業誘致はというご質問でございますが、交渉しているというようなお話ではないのですが、先ほど種村議員の再質問に、町長のほうから触れていただきましたメガソーラの関係のことがございます。これについて、私のほうからも少しご紹介をさせていただきます。

本年7月1日から施行が予定をされております経済産業省の所管をする再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法でございますが、これに関連して太陽光を利用したメガソーラの事業を本町においてできないかという民間事業者が調査及び研究をされているというふうにお聞きをしております。これが具体的に事業化のきざしが見えましたら、その時点で議会への報告もさせていただきたいと考えております。

次に企業誘致への取り組みをどうするのかというようなご質問がございました。これにつきましては、これまでのように社会情勢というか、経済情勢が円高、あるいは東南アジアを含めたアジアなどの発展途上国のほうに工場が移転をしてしまうということからも、なかなか製造業を中心とした大規模な企業誘致は望めないようなことかなというふう考えております。

このようなことから、東員町としましては比較的コンパクトで、町長からも答弁がありました将来性のあるベンチャー企業を誘致できれば素敵だなと、そんなふうにしておるところでございます。

これはまだアイデアの域でございますが、例えば3Rに代表されますような廃棄物の処理、あるいは処分、こういった再資源化を担うような静脈産業や、住民生活に深く根ざした身近な太陽光発電や燃料電池などの地域エネルギービジネス、こういったものが考えられますし、少し突飛でございますが、例えば先ほどもご紹介の

ありました歌舞伎だとか、あるいは上げ馬神事だとか、そういったことを少してこ入れをしまして、専門学校的な、アカデミー産業みたいなものが誘致できれば、すごくチャームな東員町になるのではないかなというふうに思っております。

最後になりますが、固定資産の関係でございます。平成23年度末で固定資産税額は約14億9,200万円でございます。うち企業分は8億9,000万円ほどでございます。固定資産の全体に占める割合としましては、約60%となっております。今年度の調定額と申しますか、予定調定額でも同様な数字を示しておりますので、約60%が企業からの固定資産ということになります。

島田議員からは定住や活性化をとということで、ある一定の企業からの固定資産というのは有効ではないかというお話もいただきました。私もそのあたりについては同様の考えを持っておりますので、一定規模の企業誘致は必要ではないかなというような、そんな考えを持っております。

よろしくご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

議長（南部 武司君） 島田議員。

3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

やはり企業誘致は財政の根幹だと思うんですね。だから積極的に、行政だけではなくて、我々も含めて、チャンスがあれば、いろんなところに目を向けて、1社でも将来性のある企業を誘致すれば、土地の有効利用はもちろんできますし、固定資産税の増収、雇用の拡大につながると思うんですね。そういうことが増えてくれば、必ず東員町も活性化可能でございます。それについて企業誘致の場合、優遇処置というのはどの程度企業様に対してお話をされているか、いろんな市町で違っていると思います。すごくお金を使って来てくれということもあれば、余り出さずに来てということもございますので、それによって徴収額が変わってきますので、うちとしては優遇措置を講じてもたくさんの企業を呼びたいのか、それともの確なものなのか、よろしくお願ひします。

議長（南部 武司君） 樋口副町長。

副町長（樋口 和人君） 企業誘致のための優遇措置は、というご質問でございます。

残念ながら、今東員町は有効な手だてになるような優遇制度を持っておりません。ただ、この先、先ほど町長も述べておりますような新しい形の企業、あるいはビジネスが誘致できるようなことであるとすれば、その支援制度も考えていく必要があるのかなというふうには思っておりますので、この先、さまざまな検討を加えていきたいなと、そんなふうに思っております。

以上です。

議長（南部 武司君） 島田議員。

3番（島田 正彦君） 企業をたくさん呼ぶのがメリットなのか、有効な企業だけをチョイスしてやるのがメリットなのか、その辺は私も不透明でわかりません。ただやっぱり町がにぎわうには、たくさん企業を呼んで、従業員をたくさんやれば、町は活性化すると思うんですね。

先ほども言いましたけど、飛島村では人口4,500人なんですけど、昼間人口は1万3,000人なんですね。約3倍ぐらいの従業員がいろんなところから集まってきております。それがいいとか悪いとかは別にして、やっぱりにぎわいの町というテーマもここにありますので、企業誘致に、我々含めて積極的に挑戦していきたいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いします。

最後になります。先ほどちょっと言い忘れましたが、これが町の駅の認定書なんです（島田議員 資料を示す）。阿下喜温泉から借りてきましたけど、これをまず認定をいただきます。そうすると玄関にはこういう看板ですね（島田議員 資料を示す）。立て看板なんですけど、私外して持ってきたので、こういうのを今言った中部公園の前に張ってメディアに告知すれば、メディアは町の駅だけでも取材に来ます。これがあるないで全然違いますから。まして三重県に5カ所しかなくて、3カ所がいなべ市ということでもありますので、うちも2カ所ぐらいはあってもいいんじゃないかなと。

非常に安易にできます。皆さんが交流する場所で、チラシを置いていけば、売店もあれば一番ベターでございます。青川峡キャンプ場と温泉と、もう1つ農業公園ということで、ここに看板を立てておりますので、メディアを呼ぶときには「町の駅」の中部公園に来てくださいという話ができますので、金がかかりませんので、ぜひ早急に検討していただきたいと思えます。

どうもありがとうございました。これで終わります。